

# 西脇市消費生活センター

☎22-3111 (防災安全課内)

No.197

## SNSをきっかけとしたトラブルに注意

SNS(会員制交流サイト)の利用者が増加する中、SNSに関する消費生活トラブルも増加傾向にあります。SNSは便利な反面、悪質商法に利用されるケースが多く、注意が必要です。被害に遭うのを防ぐために、よくある事例をご紹介します。

### ◆事例① 広告がきっかけのトラブル

- ・1回だけ購入するつもりが定期購入だった
- ・お金を支払ったのに商品が届かない
- ・偽物の商品が届いた

### ◆事例② 誘いがきっかけのトラブル

- ・転売ビジネスを契約したが稼げない
- ・SNSで知り合った相手とやりとりし、高額な料金を支払ったが会えない

### アドバイス

相手が本当に信用できるのか、慎重に判断しましょう。「簡単にもうかる」などのメッセージはうのみにしてはいけません。また、個人情報や自分の写真、身元が分かるような投稿はしないようにしてトラブルを未然に防ぎましょう。

不安に思ったり、トラブルが起こったりしたときは、すぐに西脇市消費生活センターへご相談ください。

## めぐりこラム 35

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線 2031)



萬乗醸造社員の話に熱心に耳を傾ける学生

## 農醸プロジェクト～日本酒で学生の夢を醸す～

西脇市は平成30年に株式会社萬乗醸造(名古屋市)と締結した包括的連携協定に基づき、次世代の農業の担い手確保と人材育成を目的とした「農醸プロジェクト」を実施しています。農醸とは「農業」と「醸造」の言葉を組み合わせた造語で、プロジェクトは同社の酒蔵に市内外から実習生を呼び込み、酒米の栽培や日本酒の醸造を学ぶものです。

萬乗醸造は平成22年に西脇市で酒米・山田錦の栽培を開始。令和2年2月には、黒田庄町門柳に酒蔵を建設し、西脇市内で酒米の栽培から日本酒の醸造までの工程を一貫して行っています。

プロジェクト2年目の今年度は、東京農業大学で醸造を学ぶ学生5人が参加し、日本酒の歴史や醸造の工程、山田錦を核とした循環型農業を、座学と実習で学びました。

今後も西脇市は同社とともに、農業や醸造の体験をきっかけとした関係人口の増加や人材育成、地域コミュニティの醸成など、酒造りを通じた「ひとづくり」に取り組みます。



▲相談しながら共同作品を作る子どもたち(子ども絵画教室)

# 好きです！にしわきわたしのふるさと

## 心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

人生を豊かに生きるために  
あなたの「学び」をはじめませんか

「人生100年時代」といわれる今、全ての人が生涯にわたって自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを通じて生きがいの創出につなげていくことが重要です。西脇市中央公民館では、市民の皆さんの「学びの場」を提供するため、幅広い講座の開講や高齢者大学の活動を実施しています。その中の一部をご紹介します。

子どもさんには：

### ○子ども絵画教室

5歳～小学6年生の子どもたちが共同で作品を作ったり、カリキュラムにそって自分だけの絵画を描いたりする教室です。絵画を通じて、豊かな人間性を育むことも大きな目標です。

### ○子ども手芸教室

創造力を大切にし、裁縫道具の基本的な使い方を学びながら、1回の教室ごとに一つの作品を作り上げます。

### ○わんぱくウオッチング

西脇市動植物生態調査研究グループ協力のもと、市内外の池でバードウォッチングを行います。鳥の名前やその生態を学ぶ講座です。

### ○夏休み子ども将棋教室

楽しみながら将棋を学べる教室を目指しています。

大人の皆さんには：

### ○ヨーガ教室

楽しみながらリラクゼーション時間を過ごせると好評です。

### ○公民館自主運営講座

俳句、書道漢字・かな、ペン習字、古典文学、とう工芸写真等の講座があります。講座生が計画・運営しています。

### 高齢者大学

市内3つの学園で教養・専門・趣味の講座を開催。30人以上の学生が学んでいます。自分たちの興味関心に基づいて学習をすすめ、培った学習力を地域で活用するなどして、「学んでよかった」と考える大学を目指しています。

◆問合せ 中央公民館(総合市民センター内) ☎22-15996

## 心のスケッチ

155

## 人権教育課コラム

近くて遠い隣人

西脇市に来るまで、私は実家から離れて暮らしたことがありませんでした。引越してきた1年目は、知り合いがいないまちでの初めての1人暮らしに、「一瞬も気が抜けない」と警戒心を抱きながら日々を過ごしていました。ある日のことです。「ドーン！」と大きい音が聞こえアパートの外に出てみると、火花が見えました。私はそのまま、外で火花を眺めていました。すると、隣の部屋に住む女性も外に出てきました。初めて顔を会わす隣人に話し掛けるか悩みましたが、結局、その日はあいさつを交わすだけで、それ以上会話することはありませんでした。

それから日が過ぎ、私の家のインターホンが鳴りました。ドアを開けると、隣人の女性が「野菜、いりませんか」と突然のこと驚き、警戒心もまだ解けていなかった私ですが、あの夜、火花を見るために外に出たのは私と彼女だけ。「仲良くなれるかも」と、その野菜を受け取りました。今年の3月で、西脇市で暮らし始めてから4年がたちます。隣人の女性とはよく話すようになり、食事も一緒にする関係になりました。今では、その人以外にも、西脇市には心を許せる人がたくさんいて、私の警戒心は徐々に解きほぐされていっています。

令和2年1月に行われた内閣府の世論調査によると、地域での付き合いを「よく付き合い合っている」と答えたのは全体の16%で、地域や近所付き合いは希薄化しているといわれています。しかし、望ましい地域での付き合いの程度に関する問いには、半数以上が「地域の行事や会合に参加することが望ましい」と答えており、必ずしも地域や近所の人への関心がないわけではないことが分かります。

## 市長からの手紙

98

西脇を元気に!!



西脇市長 片山 三二

### わがまちの財産

2月13日、西脇小学校校木造校舎が昨年8月に国重要文化財に指定されたことを記念するシンポジウムを開催。建築関係者の中でも話題となっているように、シンポジウムと校舎見学会には、遠くは東京や埼玉からの来場がありました。また、大変うれしいことに、来賓として末松信介文部科学大臣、藤井比早之衆議院議員(同校卒業生)にも列席いただきました。シンポジウムでは、建築家・藤森照信東京大学名誉教授、木造構造の



見学会には約200人が参加。熱心にメモや写真を撮る姿も。

シンポジウム開催日の朝、偶然、テレビに同校卒業生の十倉雅和経団連会長が出演されていて、これから地方が発展する可能性とそのヒントが話題になっていました。先人達が残してくれた宝を心のよきところへ後世に遺すべく「元氣なまち・誇りが持てる西脇市」をと共に創ってまいります。